

一応、私は税について少し理解があると思っている。昔、税がない世界はどうなるのか、というある本のコラムを読んだことがある。救急車は呼ぶのに数千円、警察も消防もないうえ、ゴミ収集車だってこないから自分で何とかするしかない。私はこんな世界に住みたいと思わない。だからこそ、税のありがたみは少しながらも感じている。しかし、私の日常生活において「税」を意識したことは少なく、税の恩恵はあまり深く感じることはなかった。

私の父方の祖父母は鳥取県の中部、三朝町に暮らしている。三朝町はのどかな温泉街が広がっていて、特に三朝温泉は有名な観光地で、多くの人々が三朝町を訪れる。私たち家族も、三朝に帰省をする際は毎回お世話になっている、私の大好きな温泉だ。

一つ興味深いものを見た。「入湯税」。そんなに値が張るわけでもないが、少し気になってしまった。入湯税とは何だろうか。そもそもなぜ銭湯に税をかけるのか。色々考えてしまった。

あのあと、インターネットで入湯税について調べてみた。入湯税は、公衆浴場やお風呂がある旅館やホテルなどの整備に使われるようだ。また、その観光地のイベントの宣伝費用に使われたり、観光スポットの整備に使われたりする。気づいた。もしこの税がなかったとしたら、どうなるのか。三朝温泉はここまで有名になれなかったかもしれない。ここまで三朝町の活気がなかったかもしれない。

入湯税は、温泉街を支えている。一見疑問に感じる税だが、それは私たちの観光を豊かにしてくれるものであり、そこに住む人々や街を支えているものでもある。私の祖父母にもその恩恵が届いていると思うと、一人の観光客として自分が誇らしく思える。

世界に目を向けると、一見疑問に感じる税がたくさんある。イギリスの「渋滞税」や、ヨーロッパ各地の「犬税」、ハンガリーの「ポテトチップス税」など様々である。これらの税にも、その土地の理由があり、その税で恩恵を受けている人々がいるはずだ。入湯税だって、海外の人から見ると意外な税のようだが、相応の理由があり、恩恵を受けている人々がいる。

税は助け合いである。自分が納める税金で恩恵を受けている人がいるが、逆もしかり。自分も恩恵を受けているということを忘れてはならないと感じた。お互いに納めることで、お互いが恩恵を受けられる。

入湯税を通して、自分の視野が広がった。税の向こう側にいる人々や街が見えた。そして、自分も支えられているということを感じた。税の向こう側に見える人々や街。それは自分の祖父母かもしれない。自分の好きな温泉かもしれない。私は納税をする。税の向こう側の人々や街のために。そして、いつか還ってくる自分のために。